



首から掛ける「式章」
合掌の際の「お念珠」
そして「お経本」
の3点セット

経験。振り返れば住職のおっしゃる通り「何てない。大丈夫」な事でした。

その後の私。何も変わりません。愚痴は言う、怠ける、娘と喧嘩はする、ダイエットは口ばかり。でも、帰敬式での有り難かった事や、本願寺のゆっくりした時間の流れを思い出した時、「まあいいやん」「こは頑張りや」と、少し視野が広がったり心の余裕が出来たり優しくなったりという事が無きにも非ず、という感じがします。(単純ですね)

和歌山からは、近くて遠い・遠くて近い京都です。帰敬式受式の1人旅は、行ってみたら「何てない。大丈夫」な、自分の人生の中でこんな事もあるんだなあ〜と、いろんなご縁と出会いに感謝しきりの旅となりました。

※1 内願・・・法名は経典から二文字を選んで与えられますが、自分で文字を指定することはできません。希望の文字がある場合などは、事前にその文字を本願寺へ知らせる審査を受ける必要があります。そのことを内願といいます。

※2 晨朝・・・本願寺で毎朝6時より勤められる朝のお勤めのこと。

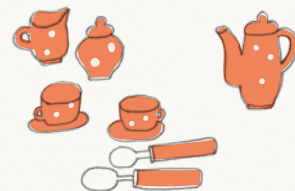


帰敬式のパンフレットあります。
ご興味のある方はご自由にお持ち帰りください。

ぼうもり
坊守さんの

日々のあわ

お茶をどうぞ



2歳半になった娘、近頃の定番の遊びは「おままごと」です。お気に入りの、小さな籐編みのトランクケースに入った小さな陶器のティーセットたずさを携えて部屋じゅうかっぼを闊歩し、おもむろに床にハンカチをばさっと広げたかと思うと、せっせとカップ&ソーサーを並べ、スプーンを添えて、真ん中にはティーポットとミルクピッチャー、シュガーポット。準備ができたなら「さあ、おちゃかいしょ！」

とお誘いの声がかかります。カップは4客入っているのですが、たいていの場合本人と私、彼女のお友だち(ぬいぐるみ)の中から選抜された2名が参加するのですが、みんなにお茶を注いでミルクとお砂糖を入れ、スプーンでくるくるかき混ぜて「はいどぞ」とすすめてくれます。「あついからフーフーしてね！」だそう、ちいちゃなカップを指先でつまんで、フーフーしてからいただきます。注ぐ時に、ちゃんとポットのふたを指で押さえて傾けているのには、感心するやらおかしいやら。よく見(られ)ているなあ…。

年明け、留守番がてら娘とお寺の休憩所にいたら、このおままごとのお茶会が始まってしまいました。ちょうどお墓参りに来られていたご家族の中に同じ年頃の女の子がおり、入ってくるなりこちらにトコトコ近づいてきてくれて、あっという間にお茶飲み友だちに。お茶会に垣根はありません。

大人にとってもお茶の時間はいいものです。私も、なんだか疲れてきたな…という時や気分転換したい時など、よくお茶を淹れます。今のお寺の設備では、なかなか皆さまにお茶を振る舞うことまでは難しく(すみません)、でもせっかくひと息ついていたたく場所をつくったのだから…と、セルフでご利用いただく簡単なものではありますが、休憩所にお茶のコーナーを新しく設けてみました。お参りのついでに、寺務所にご用がなくてもお気軽に立ち寄って、どうぞ休憩してってくださいね。

ところで皆さんは、「喫茶去きっさこ」という言葉をご存知ですか？ 唐の有名な禅僧・趙州じょうしゅう和尚が、悟りを開いた僧にもそうでない僧にも、またよく知った者にもそうでない者にも等しく「喫茶去！(お茶をどうぞ)」とすすめた、というエピソードからうまれた禅語だそうです。どのような人にも分け隔てなく接し、気持ちのこもった一杯のお茶でもてなす——あの小さな女の子たちのお茶会は、まさに「喫茶去！」だったなあ、などと思ってみたりするのです。